

# 名寄市教育改善プロジェクト委員会

## 教育資源等の活用に関するグループ資料

### 1 委員、研究内容、役割分担

	小 学 校	中 学 校
グループ主 任 副主任	・寺川 利幸（校長）（名寄南小） ・近藤 初美（校長）（中名寄小）	・土肥 哲哉（校長）（風連中）
研究主任 副主任	・丸山 健二（教頭）（名寄西小） ・大垣 幸治（教頭）（名寄東小） ・佐藤 郁彦（教頭）（智恵文小）	・江口 貴彦（教頭）（名寄中）
研 究 員	・谷 昌文（教諭）（名寄小） ・本松 宏章（教諭）（名寄小） ・六本木典子（教諭）（智恵文小） ・河口 一葉（教諭）（名寄東小） ・久保 稔（教諭）（中名寄小）	・佐藤 誠（教諭）（名寄中） ・手塚 諒（教諭）（名寄東中） ・由川 航大（教諭）（風連中）

### 2 研究内容

研 究 内 容	①過年度研究内容の普及・推進 ②家庭や地域の理解や協力を得た道徳教育の推進 ③地域人材や施設、関係機関と連携した健康・安全教育の推進
------------------	--

### 3 研究内容の具体

①過年度研究内容の普及・推進	・地域人材や施設、関係機関と連携した取組の交流 ・実物投影機など ICT を効果的に活用した授業研究の実施 ・各学校の EN-RAY ホールを効果的に活用した取組
②家庭や地域の理解や協力を得た道徳教育の推進	・「わたしたちの道徳」の効果的な活用
③地域人材や施設、関係機関と連携した健康・安全教育の推進	・望ましい生活習慣の確立を図る取組（家庭で取り組む7つのポイントの徹底）

### 4 取組概要

- 4月28日 第1回名寄市教育改善プロジェクト委員会  
第1回グループ会議  
・研究内容の具体と計画
- 5月22日 第2回名寄市教育改善プロジェクト委員会  
第2回グループ会議  
・研究内容と計画の確認、分担
- 6月17日 第3回グループ会議  
・EN-RAYホールの施設見学
- 9月 2日 第4回グループ会議  
・道徳の指導案検討

- ・家庭で取り組む7つのポイントの実態把握の方法
- ・地域人材や施設、関係機関と連携した取組の交流
- 1月17日 第5回グループ会議
  - ・各グループの研究内容のまとめ方
  - ・家庭で取り組む7つのポイントの実態に関する考察
  - ・ICTを活用した指導方法等に関するミニ研修
- 1月14日 第3回名寄市教育改善プロジェクト委員会
  - 各研究グループの研究の成果と課題
  - 名寄市教育研究集会に向けて
- 1月中旬 研究のまとめと答申
- 1月26日 名寄市教育研究集会
- 2月9日 第4回名寄市教育改善プロジェクト委員会
  - 平成28年度に向けて

## 5 成果と課題

### ① 過年度研究内容の普及・推進

- ・地域人材や施設、関係機関と連携した取組の交流
  - 成果…各学校における新たな取組や従前の取組を生かした地域人材や関係機関と連携した実践の交流が図られた。
  - 課題…年度当初に各学校の教育課程の編成に生かすため、全学校の教職員に周知。
- ・実物投影機など ICT を効果的に活用した授業研究の実施
  - 成果…ICT を活用した指導方法等に関するミニ研修や授業実践を行い、児童生徒の理解を助けるツールとしての様々な活用方法について研修を深めた。
  - 課題…研修内容を各学校の先生方に普及するため、各学校における校内研修等の研修計画や研修内容の工夫改善。
- ・各学校の EN-RAY ホールを効果的に活用した取組
  - 成果…EN-RAY ホールの見学会を実施し、施設利用等に関する理解が深まった。またホールの活用について情報交流を行った。
  - 課題…EN-RAY ホールまでの、児童生徒の移手段の確保。

### ② 家庭や地域の理解や協力を得た道徳教育の推進

- ・「わたしたちの道徳」の効果的な活用
  - 成果…「わたしたちの道徳」を活用した道徳の研究授業や風連中学校の実践をもとに授業分析や実践交流を行った。
  - 課題…「わたしたちの道徳」の一層の活用に向けた授業研究、実践交流の実施

### ③ 地域人材や施設、関係機関と連携した健康・安全教育の推進

- ・望ましい生活習慣の確立を図る取組（家庭で取り組む7つのポイントの徹底）
  - 成果…名寄市の全学校における「家庭で取り組む7つのポイント」の定着状況に係るアンケート調査を実施し、児童生徒の実態を把握することができた。小中学校での実態の違いが明らかになった。
  - 課題…小学校と中学校における実態に差があることが明らかとなった。今後、「家庭で取り組む7つのポイント」の定着に向けた具体的な手立てを講じる必要がある

## 研究内容① 過年度研究内容の普及・推進

## ○ 地域人材や施設、関係機関と連携についての交流

・今年度新たに活用した人材・施設

人材・施設名	名寄河川事務所、(株) 福田水文センター (旭川)
時期	9月 4年
教科 ・ 単元名	総合的な学習の時間 「名寄の施設や自然を調べよう」 ～豊西小～
活用にあたって	よかった点 ・ 専門家の方の指導により、様々な体験をすることができた。 ・ ライフジャケット等、安全面での配慮がなされていた。

人材・施設名	旭川市車椅子紅蓮隊
時期	11月 6年
教科 ・ 単元名	総合的な学習の時間 (福祉) 「共生ってなんだろう？」 ～名寄南小～
活用にあたって	よかった点 ・ 車椅子ユーザーの方とのふれあいにより、共生の意識を育むことができた。 今後の課題 ・ 名寄市社会福祉協議会との日程等の調整

人材・施設名	名寄太鼓保存会の近藤さん
時期	9月～10月 5年
教科 ・ 単元名	音楽 おまつりの音楽 ～名寄東小～
活用にあたって	よかった点 ・ 外部講師 (近藤さん) のデモンストレーションが子どもたちの意欲喚起につながった。

人材・施設名	社会福祉協議会 カムイ大雪バリアフリースペース
時期	5月 6年
教科 ・ 単元名	総合的な学習の時間（福祉） ～下多寄小～
活用にあたって	よかった点 ・ 車いすの方のお話を聞いたり一緒に遊んだりする経験を通して、子どもたちの考え方が深まった。

人材・施設名	株式会社 DeNA
時期・教科 単元名	10月 1年 道徳の時間、インターネット・スマホ使用のモラルについて講話 ～名寄中～
活用にあたって	よかった点 ・ インターネットやメール、SNS などを通して実際に起きているトラブル等と、それらを未然に防ぐために必要なことについて話していただき、インターネットやスマホの使い方に係る生徒の意識が図られた。また、専門家による講話のため、説得力のある話をしていただくことができた。

## 研究内容① 過年度研究内容の普及・推進

## ○ 実物投影機など ICT を効果的に活用した授業研究の実施

・他校の実践を参考にした活用例

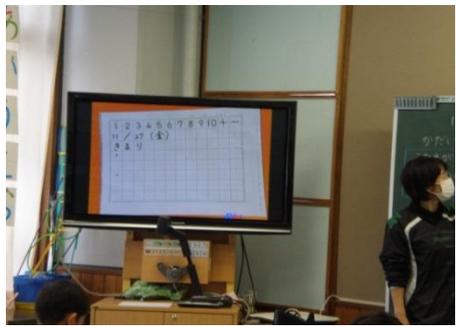
他校の実践を参考にした活用例 ～名寄東小～	
学年・教科	小学校 第5学年 算数
単元名・使用機器	算数科 ほとんどの単元 実物投影機
活用にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人思考の場面のノートを全員が同時に見える。</li> <li>・使い方に慣れれば問題ないが、十分に使いこなすまでには少し時間がかかる。</li> </ul>

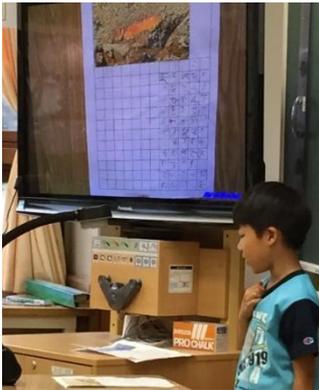
他校の実践を参考にした活用例 ～下多寄小～	
学年・教科	1、2年生 道徳
単元名・使用機器	パソコン、パワーポイント
活用にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を画面で提示できる点（児童が集中できる）</li> <li>・視覚的に教材を提示するなど、内容項目の指導の充実を図ることができた</li> <li>・提示する資料等を作成する際に時間を要する。</li> </ul>

他校の実践を参考にした活用例 ～智恵文小～	
学年・教科	小学校 第5学年 「社会科」
単元名・使用機器	「わたしたちの生活と工業生産～自動車をつくる工業」 大型テレビ パソコン
活用にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に沿った自家用車の製造工程を自動車工場で見学することができた。</li> </ul>

他校の実践を参考にした活用例 ～名寄東中～	
学年・教科	1 学年 総合的な学習の時間
単元名・使用機器	職業体験学習 学習発表 パソコン パワーポイント
活用にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドを切り替えなければいけないので、黒板との併用は必要不可欠。大切な情報は黒板にもまとめておくことが重要。</li> <li>・生徒の作業途中のワークシートを写真に記録し、モニターを通して全体に提示することで、より理解を深めることができた。</li> </ul>

・今年度新たに活用した具体例 ～国語科～

学年・教科	小学校 第1 学年 国語	
単元	ノート指導	
使用機器	実物投影機	
使用目的・場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの書き方指導</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの書き方等を視覚的に示すことにより、学級全体に効率良く指導することができた。</li> </ul>	
課題	特になし	

学年・教科	小学校 第1学年 国語	 
単元	「すずめのくらし」(教育出版)	
使用機器	実物投影機	
使用目的・場面・方法	<p>目的：写真を添付したクイズ(A4の用紙)を学級全体で交流する際、実物投影機で映し、それを見せながら発表した。</p> <p>場面：単元を貫く言語活動として(『すずめのくらし』を読んで、問いと答えをつかった「いきものクイズ」をつくろう。)を設定し、いきものクイズを発表する場面で実物投影機を使用。</p> <p>方法：児童一人一人のクイズを拡大して映す。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機で拡大して映すことにより、写真等がはっきりと見ることができる。</li> <li>・発表を聞くだけでなく、「いきものクイズ」の問いと答えの文を見比べながら読むことができる。</li> </ul>	
課題	特になし	

学年・教科	小学校 第2学年 国語	
単元	「かさこじぞう」(教育出版)	
使用機器	電子黒板	
使用目的・場面・方法	<p>目的：児童の考えを学級全体で共有するため。</p> <p>場所：教室</p> <p>方法：実物投影機で教科書を映す</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えを記載した教科書を映し出すことによって、学級全体に的確に伝えることができた。(意味不明)</li> <li>・友達を考えなどを視覚的に確認することができる。</li> </ul>	
課題	・パソコンと連動させるなど、より効果的な指導方法の研修が重要。	

学年・教科	小学校 第2学年 国語
単元	「さけが大きくなるまで」
使用機器	テレビ パソコン
使用目的・場面・方法	・単元の学習計画表と一単位時間の学習の流れを、パワーポイントを使用し提示した。
成果	・子どもたちが学習の見通しをもてずにいる時など、学習の流れを自分で確認をすることができ、何をすれば良いのかがわかったこと。
課題	・パソコンの機種により、パワーポイントの文字がずれてしまうこと。 ・一部分を拡大することができないので、文字の大きさと情報量を考えるのが大変だったこと。

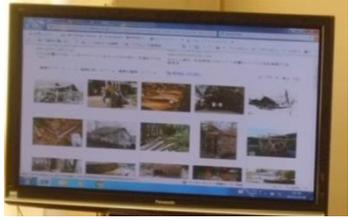
学年・教科	小学校 3年 国語・書写	
単元		
使用機器	大型TV、パワーポイント	
使用目的・場面・方法	課題の提示 授業展開 まとめなど	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の関心をよりひきつけることができた。</li> <li>・データで保存できるため、前時の学習をふり返りやすい。</li> <li>・大事なポイントを画面上でしっかり確認することができた。</li> </ul>	
課題		

学年・教科	小学校 第4学年 国語
単元	花を見つける手がかり
使用機器	TV、パソコン
使用目的・場面・方法	教室に掲示していた単元の指導計画をパワーポイントで簡単に振り返られるようにした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚化することができた。</li> <li>・必要に応じて、随時学習の振り返ることができる。</li> </ul>
課題	・特になし

学年・教科	小学校 第4学年 国語	
単元	「よりよい話合いの仕方を考えよう」(1時間目)など	
使用機器	大型テレビ、ノートPC、ムービーメーカーで編集した映像	
使用目的・場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な話合いの進め方を映像で紹介した。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの進め方のポイントを、動画として提示することで、必要に応じ、何度もくり返して視聴し、指導することができる。</li> <li>話合いの進め方の具体的なイメージをもたせることができた。</li> <li>自校の教員が出演することで、児童の興味関心が高まった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用場面が限られる。</li> <li>指導のポイントをおさえた提示ということが大前提となる。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～社会科～

学年・教科	小学校 第3学年 社会	
単元	「わたしのまちみんなのまち」	
使用機器	テレビ パソコン	
使用目的・場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>グーグルアースを使い、上空からの画像で名寄市の土地の使われ方などを調べた。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる観点を明確に指示することにより、子どもたち同士でパソコンを使って主体的に調べることができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	

学年・教科	小学校 第4学年 社会	 
単元	「昔から今へと続くまちづくり」	
使用機器	電子黒板	
使用目的・場面・方法	<p>目的：昔の町の様子等を分かりやすく表示するため</p> <p>場面：学習の導入場面</p> <p>方法：電子黒板で、インターネットから情報を入力</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真等の細かな箇所を分かりやすく表示できた。</li> <li>・視覚的に把握させ、昔の町の様子をイメージさせることができた。</li> <li>・効率的に授業を進めることができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽の日差しで教室が明るいと、カーテンをかけても見づらいことがある。(環境面)</li> <li>・モニター画面が大きくなると後部座席の児童が見えにくい。</li> </ul>	

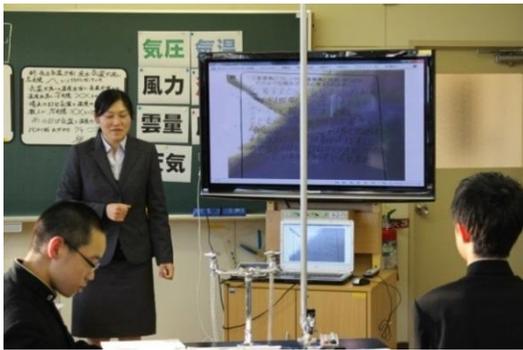
・今年度新たに活用した具体例 ～算数科～

学年・教科	小学校 第3学年 算数	
単元	「わり算」	
使用機器	実物投影機 大型モニター	
使用目的・場面・方法	<p>目的と方法：児童のノートを拡大して映し、それを用いて児童が説明し、全体で交流する。</p> <p>場面：個人思考の後の、全体交流の場面</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が発表する際に、手元にノートがあり、自信をもって発表することができる。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に写真のような状態に、環境を整えておくべき。</li> </ul>	

学年・教科	小学校 3年生・算数	
単元	かけ算の筆算(1)	
使用機器	iPad・Apple TV・大型テレビ	
使用目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間接指導の充実</li> <li>・ I C T機器を活用する能力の向上</li> </ul>	
使用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団解決の時に、自分の考えを友だちと交流する場面</li> </ul>	
使用方法	<p>①iPad と大型テレビを Apple TV の Wi-Fi で無線接続する。</p> <p>②iPad でノートの写真を撮る。</p> <p>③大型テレビにノートの写真が投影される。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続を含め、準備が簡単にできる。</li> <li>・ 子ども自身で操作できる。</li> <li>・ 大きく見せたり見せたい物を絞って提示したりすることができる。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特にありません。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～理科～

学年・教科	小学校 第5学年 理科	
単元	「流れる水のはたらき」	
使用機器	電子黒板	
使用目的・場面・方法	<p>目的：自然の事象を視覚的にとらえることで、学習内容の定着を図るため。</p> <p>場面：導入・展開・まとめの各場面。</p> <p>方法：パワーポイントのスライド資料（写真・図・説明など）を電子黒板に映す。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の説明やまとめの補助として、情報を視覚化することで、より多くの児童に学習内容の定着を図ることができた。</li> <li>・ 教科書の問題や、写真・図・グラフなどを映すことにより、学習内容や指示内容の共有化がスムーズに図られ、スムーズに授業を進めることができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室環境によっては、I C T機器が整備されていない場合があり、I C T機器の十分な活用ができない場合がある。</li> </ul>	

学年・教科	中学校 2年 理科	
単元	「気象とその変化」	
使用機器	タブレット端末	
使用目的・場面・方法	生徒が作成した発表資料をタブレット端末等のICTを活用して提示させることで、新たな疑問点等を発見するなど、課題意識を持たせるため。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が作成した発表資料をテレビ画面に映し出すことで生徒の集中力や学習意欲を高めることができた。</li> <li>・図や表を表示して発表することで、言葉だけでは理解しにくいところでも、視覚的にとらえ、理解を深めることができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの取り扱いに慣れていない教員に対する使い方や運搬、セッティング等のサポート。</li> <li>・機器の準備や教材研究に時間がかかる。</li> </ul>	

学年・教科	中学校 第2・3学年 「理科」
単元	各単元での基礎的学習内容の確認
使用機器	iPad～パワーポイント
使用目的・場面・方法	・授業開始時、iPad内のパワーポイントをフラッシュカード的に用い、用語や公式の確認を行った。
成果	・毎時間、短時間で学習内容の振り返りを行うことができ、基礎的・基本的な学習内容の定着につながった。
課題	・iPadは個人所有のものを使用している。

学年・教科	中学校 第2学年 「理科」
単元	「電流とそのはたらき」
使用機器	iPad～画像提示
使用目的・場面・方法	電流・電圧・抵抗・発熱などについて調べる各実験の場面で、回路図や実験装置を画像で提示。
成果	・実験に係る具体的なイメージをもつことができるため、正確な回路を短時間で作ることができた。また、一部分の拡大が容易にできるため、実験器具について、わかりやすく説明することができた。
課題	・iPadは個人所有のものを使用している。

学年・教科	中学校 第2・3学年 「理科」
単元	「化学変化」「イオン」
使用機器	iPad～動画撮影、提示
使用目的・場面・方法	2学年の化学変化、3学年の電気分解、電池などの実験において、変化の様子を動画で撮影し、全体で確認した。
成果	・動画で再生し確認することによって、反応や変化の特徴的な場面に注目させることができた。また、反応の瞬間を見逃しても、複数回再生することで、しっかりと確認させることができた。
課題	・iPadは個人所有のものを使用している。

・今年度新たに活用した具体例 ～英語科～

学年・教科	中学校 第2学年 英語
単元	基本、全単元において
使用機器	タブレット
使用目的・場面・方法	パワーポイントを使用した新出単語、文法の導入場面
成果	・パワーポイントを使用して新出単語、文法の導入を行うことで、説明を聞くだけでなく、視覚情報の助けもあり、理解が深まる。また、図などを用いることにより、視覚情報が豊かとなり、一層理解の定着が図られた。 ・音声データをタブレットに入れておくことで、CDの入れ替えもなくスムーズに授業を進めることができた。

・今年度新たに活用した具体例 ～体育科～

学年・教科	小学校 第6学年 体育
単元	マット運動
使用機器	I pad
使用目的・場面・方法	児童が技をしているときの様子を録画する。 その様子を、自分で見ることで、良い所、直したらよい所を確認する。
成果	・児童が自分の技を見ることで課題や成果を確認しやすくなった。
課題	・iPadの台数が多くなると、班ごとに使用できる。

学年・教科	小学校 第5学年・第6学年 「体育」	第3学年・第4学年 「体育」
単元	マット運動	跳び箱運動
使用機器	デジタルカメラ	
使用目的・ 場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラの動画機能を利用して撮影する。フォームを確認し、自分の課題を見つけることを目的に使用した。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のフォームをその場ですぐに確認することができ、できるようになるためのポイントを意識しながら、練習することができたこと。</li> </ul>	

学年・教科	中学校 第2学年 保健体育	
単元	「マット運動」	
使用機器	iPad (iPhone)	
使用目的・ 場面・方法	マット運動の練習の場面で、互いに撮影しあい、自分の動きを確認させた。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の動きを動画によって客観的に見ることにより、自ら改善点を見つけるなど、練習に対する動機づけとなるとともに、技術力の向上にもつながった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad (iPhone) は個人所有のものを使用している。また、生徒に貸し与えて操作させることとなり、使用上のモラルの指導が必要となる。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～生活科～

学年・教科	小学校 全学年 生活(1～2年)・総合(3～6年)	
単元	「大空活動～夕顔の変身」	
使用機器	大型テレビ・ビデオカメラ	
使用目的・ 場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>夕顔の皮のむき方や実の切り方等の様子を講師の先生の手元をビデオカメラで撮りながら、大型テレビに映し出した。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>手元を大きく映し出すことができるので、細かいポイントなどを全体に説明するのに効果的だった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	

学年・教科	小学校 第1・2学年 「生活」	
単元	「シクラメンを育てよう」	
使用機器	大型テレビ 実物投影機	
使用目的・場面・方法	・全校で育てているシクラメンの植え方を2年生が1年生に教える際に、実物投影機を使用した。	
成果	・説明しながらシクラメンの植え方やお世話の仕方をていねいに教えることができたこと。	
課題	・特になし	

・今年度新たに活用した具体例 ～総合的な学習の時間～

学年・教科	小学校 6年 総合的な学習の時間（修学旅行）
単元	
使用機器	PC（インターネット・発表名人）
使用目的・場面・方法	修学旅行のまとめ発表（プレゼンテーション）のために写真などを使ってスライドを作成した。
成果	・パソコンの基本操作やインターネットの使い方、プレゼンテーションの方法など、情報教育と関連づけて指導することができた。
課題	

学年・教科	小学校 5、6年 総合的な学習の時間	
単元	作物栽培	
使用機器	iPad	
使用目的・場面・方法	収穫祭の学習発表の際に iPad を発表原稿メモとして活用した。児童は iPad の画面に書かれたメモを見ながら発表した。	
成果	・紙にメモを書くよりも修正がしやすく、作業がはやい。	
課題		

学年・教科	小学校 6年 総合的な学習の時間	
単元	自主研修の計画をたてよう（修学旅行）	
使用機器	PC（Webカメラ内蔵）大型テレビ 使用ソフト：スカイプ（Microsoft社）	
使用目的・場面・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔地の小規模校児童との合同自主研修の計画について話し合いを行う。</li> <li>・指定した授業時刻にソフトを通じてネットによるテレビ電話を使用。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のため、日常的に交流活動および話し合いがマンネリ化していたが、他校の児童と直接会話をしながら学習活動ができた。緊張しながらも相手を意識して話を進めようとする姿が見られるなど、話し合いを深めることができた。移動の必要がないため、遠隔地や他校児童との交流活動がスムーズに行うことができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアの導入手順について確認が必要。児童に使用させる場合は、ネチケットや使用規則を指導する必要がある。活用場面をさらに検討し、より効果的に使用できると良い。</li> </ul>	

学年・教科	中学校 2学年 総合的な学習の時間	
単元	職業体験学習 学習発表	
使用機器	PC パワーポイント	
使用目的・場面・方法	<p>職業体験学習において、職業調べや体験の記録、学習のまとめについて1人1人がパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った。各学級2名代表者を選定し、体育館で学年全体を前に学年発表会を行った。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを作成することで、体験した内容をわかりやすくまとめることができるなど、効率よく体験活動のまとめの学習を行うことができた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCの扱いについて個人差が大きいため、指導に時間がかかる生徒もいる。機器の操作に慣れていないため、練習時間をしっかりと確保する必要がある（時数の問題）。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～道徳～

学年・教科	小学校 第6学年 道徳	
単元	「困難を乗り越えて（名寄岩）」	
使用機器	パソコン（パワーポイント）	
使用目的・場面・方法	<p>道徳の時間に使う資料の内容を児童に把握させるために、パソコンのパワーポイントで作った画像資料を授業で活用した。</p> <p>発問もパワーポイントで映して、考えさせた。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の内容を視覚的に把握させることができる。また、スムーズに授業を進めることができた。</li> <li>道徳の時間の授業におけるノートの書き方や文章の書き方をわかりやすく伝えることができた。</li> <li>児童はプレゼンを見ることによって、どのように学習を進めたらよいかを把握することができるので、主体的に学習に取り組めるようになった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報量が多くなるすぎないように、資料の内容の焦点化を図る必要がある。</li> </ul>	

学年・教科	中学校 2学年 道徳	
単元	コミュニケーションアプリの使い方	
使用機器	iPad	
使用目的・場面・方法	<p>【目的】スマホの扱い方の光と影の部分を確認し、適切な判断と行動がとれるようにする力を身に付けさせるため。</p> <p>【場面】展開前半</p> <p>【方法】スクリーンに映し出す。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPad アプリ『スマホにひそむ危険』を通して、正しくないスマホによって起こりうる問題について疑似体験をすることができた。</li> <li>また、情報化が及ぼす問題について考えを深めることができた。</li> <li>資料を大きく映すことができるため、後部座席の生徒も見やすい。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリを使うタイミング、場面、単元を精査する必要がある。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～学級活動～

学年・教科	小学校 第6学年 「学級活動」、「参観日の懇談」	
単元	「行事のふり返し」	
使用機器	大型テレビ、ノートPC、ムービーメーカーで編集した映像ファイル	
使用目的・場面・方法	<p>具体的に自分達の取組の様子を視聴することで、頑張っていた仲間様子を再確認できる。</p> <p>実際の映像を視聴することで、具体的に行事への取組の様子を伝えることができる。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に自分達のよかった点、反省点をあげることができた。保護者からは、「(準備など) 普段見られない場面の様子が見られた。」と好評であった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報内容について、事前に内容を厳選し絞り込むことが重要である。</li> </ul>	

・今年度新たに活用した具体例 ～特別支援学級～

学年・教科	肢体不自由児学級・各教科	
単元	物を見る活動	
使用機器	機器名 スマートフォンサイズの液晶画面	
使用目的・場面・方法	<p>当該児童の視覚認知の特性（30センチぐらい離れた光源を伴う物をよく見る）を踏まえ、近距離でも見やすいサイズのスマートフォンを活用し、背景を工夫して動画の画面を見やすくした。</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで、当該児童は視覚を上手く使えないところがあり、画面を提示しても注視できなかったが、スマートフォンを活用することで、注視する時間が延びてきた。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人持ちのスマートフォンなので、学校で用意できれば望ましい。また、現在は youtube のみを提示しているが、パワーポイントの教材を作成して提示できるようにしていきたい。</li> </ul>	

## 研究内容① 過年度研究内容の普及・推進

- 実物投影機など ICT を効果的に活用した授業研究の実施  
 ・ ICT の効果的な活用を位置付けた指導案例

## 理科授業案

- 1 題材 電流とそのはたらき 2章 電流と電圧  
 電熱線のつなぎ方と全体の抵抗

## 2 本時の学習について

- ① 本時の目標 並列回路の全体の抵抗について理解し、既習事項を用いて説明できる。

## ② 本時の展開

過程	◇教師の主な働きかけ	○主な学習活動	留意事項
導入	<p>◇前時までの復習を行う。            ・電流、電圧、抵抗の言葉の意味とイメージの確認</p> <p>◇2つの抵抗A・Bに3Vの電圧をかけたときの電流の大きさを調べ、抵抗の大きさを計算させる。</p> <p>◇2つの抵抗を直列につないだときの、回路全体の抵抗、流れる電流はどうなったかを振り返りさせる。</p> <p>◇直列回路では、回路全体の抵抗は2つの抵抗の和となり、流れる電流は小さくなったことを確認する。</p> <p>◇課題を提示する。</p>	<p>○前時までの復習を行う。</p> <p>○2つの抵抗A・Bに3Vの電圧をかけたときの電流の大きさを調べ抵抗の大きさを計算する。</p> <p>○2つの抵抗を直列につないだときの、回路全体の抵抗、流れる電流はどうなったかを振り返る。</p> <p>○直列回路では、回路全体の抵抗は2つの抵抗の和となり、流れる電流は小さくなったことを確認する。</p>	<p>iPad使用            (パワーポイントを用いて復習)</p> <p>2つの抵抗の組み合わせは班によって、  <math>30\Omega - 20\Omega</math>  <math>30\Omega - 15\Omega</math>  <math>30\Omega - 10\Omega</math>            の3つをつくる。</p> <p>iPad使用            (前回の実験を画像で確認)</p>
個人思考	<p>◇抵抗A・Bを並列につなげたときには、回路に流れる電流の大きさはどうなるだろうか。また、回路全体の抵抗はどうなるかについて考えよう。</p>	<p>○並列につなげた時に流れる電流の大きさと、回路全体の抵抗の大きさについて考える。理由が思いつく生徒は、それも記入しておく。</p>	

<p>実験</p> <p>まとめ</p>	<p>◇実験方法を説明する。</p> <p>◇実験を行わせ、結果を黒板に記入させる。</p> <p>◇他の班の実験結果も比較させ、わかることをまとめさせる。</p>	<p>・個人で考える。 実験を行う。</p> <p>○終わった班から、実験結果を黒板に記入する。</p> <p>○他の班の実験結果も見比べわかることをまとめる。 <b>個人思考→集団思考</b></p>	<p>iPad使用 (実験の回路図を画像で説明する)</p>
<p><b>実験結果のまとめ</b></p> <p>① 流れる電流の大きさは抵抗が一つの時より大きくなる</p> <p>② 抵抗の大きさは、それぞれの抵抗より小さくなる</p>			
<p>定着</p> <p>個人思考</p> <p>集団思考</p>	<p>◇なぜ、そのような結果になるのか、今まで学習したことをもとに、説明を考えさせる。</p>	<p>・なぜ、そのような結果になったのか、理由や説明を個人で考える。</p> <p><b>・班で相談しながら考え、班の意見をまとめる。画用紙に記入。</b></p>	<p>・早く終わった班には発展的な課題を与える</p>
<p>説明例1：並列回路では通り道が2つになるため、通りぬけやすくなるため、回路全体の抵抗が小さくなり、電流が大きくなる。(イメージを重視した説明)</p> <p>説明例2：並列回路では、抵抗一つ一つに同じ電圧がかかり、それぞれの抵抗に流れている電流が合わさるので、全体に流れる電流が大きくなる。(オームの法則、回路の性質の計算を重視した説明)</p>			
<p><b>◇学習内容のまとめをする。</b></p> <p>本時の学習内容を板書を確認する。</p>		<p><b>・班の代表者が発表</b></p> <p>・班の意見を発表する。</p>	<p>・iPad使用 (班でまとめたものを写真にとり、拡大してTV画面に表示する)</p>
<p><b>並列回路では</b></p> <p>それぞれの抵抗より回路全体の抵抗が小さくなる。</p> <p>そして、回路全体に流れる電流は大きくなる。</p>			
		<p>○黒板、ワークシートを使いながら本時の振り返りを行う。</p>	<p>説明例1が中心となる予定。</p>

### 3 本時の評価

並列回路の全体の抵抗について理解し、既習事項を用いて、説明することができたか。

## 研究内容① 過年度研究内容の普及・推進

- 実物投影機など ICT を効果的に活用した授業研究の実施  
 ・ ICT の効果的な活用に関する研修（ミドルリーダー研修）

◆動的なツールとしてのタブレット 11の活用法

- ① （文章などを）読む
- ② （映像などを）見る
- ③ （声・音や音楽を）聞く
- ④ （文字や文章を）打つ・書く
- ⑤ （ラインなどを）引く・（図表や写真などの上や横に）書き込む
- ⑥ 撮る
- ⑦ 動かす
- ⑧ 大きくする
- ⑨ 見せる
- ⑩ （デジタルテレビなどや友人のタブレットに）送る
- ⑪ 保存する

※下線を引いたのはタブレットならではの特性、下線部がないものは従来のノート・教科書などでもできること。

◆ICT活用熟成のフェーズ

フェーズ1：とにかく使ってみる・あるから考える

→フェーズ2：従来の教材・教具との関連を検討する

→フェーズ3：ICTならではの使い方を追求する

→フェーズ4：こども自らが判断する（使用場面・情報モラル等）

【北海道放送教育研究大会・視聴覚教育研究大会 中川一史氏の講演より 2015.11.7】

## 【iPadの活用例】

～理科の授業で～

- ◆既習事項の復習としてパワーポイントで用語等を確認する。  
 →昔のフラッシュカード的な使い方。毎回、繰り返し使える。
- ◆実験説明時に、実験装置や回路の組み立てなどを実際に写真で提示し説明する。  
 →生徒がイメージしやすい。部分的な拡大が容易。
- ◆教科書の図やグラフなどを写真で拡大して提示する。  
 →どの写真やグラフを説明しているのか、どの部分を注目すればいいのかなどが、生徒にとってわかりやすい。

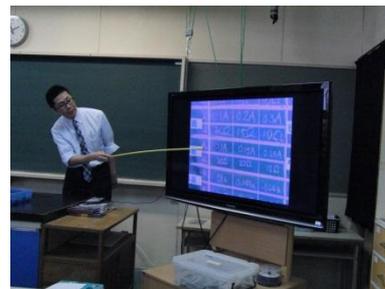


- ◆生徒の書いたワークシートを写真に映して拡大して提示する。

→すぐ見せられる。拡大が容易。

- ◆実験の様子を動画で撮影して、変化の様子等を全体で確認する。

→注目してほしい部分を繰り返し確認できる。全体で情報を共有できる。



- ◆YouTubeなどの動画を授業の導入、まとめ等で流す。

→生徒の興味関心を高めることができる。既習事項の定着・確認に利用できる。

- ◆インターネット等から、画像を集め、授業で提示する。

→生徒の興味関心を高めることができる。

- ◆アプリを活用する

例：原子のつくり、星座、オシロスコープ、

→生徒の興味関心を高めることができる。イメージをつくりやすい。

- ◆時間を計る際に、タイマーを表示する。

→生徒の集中力を高め、興味を引きつけることができる。

～その他～

- ◆合唱、チームジャンプ等の練習を動画として撮影し、学級での反省・話合いに活用する。（行事、学活）

- ◆プレー、シュートフォーム等を動画として撮影し確認する。スロー再生等。（部活動）

- ◆画像、動画素材の提示。（道徳）

- ◆パワーポイントやアプリを使って学級でイベント。（学活等）

※音楽の授業では、合唱などを撮影し、評価に活用。

※体育の授業では、自分たちのマット運動などの動きを撮影し、技の改善に生かす。

### 【使って感じた、iPadの利便性】

#### ◆vs プロジェクター

- ・簡単にTVにつなげる。（準備が簡単！）

#### ◆vs 実物投影機

- ・拡大表示が容易
- ・提示したい物の切り替えが容易。（画像を保存しておける）
- ・持ち歩き提示したいものを容易に撮影することができる（実験の様子、生徒のノート・プリント等）

#### ◆vs ビデオ・デジカメ

- ・動画の停止、早送りがしやすく、見せたい場面を見付けやすい。
- ・アプリを使うとスロー再生が容易。
- ・アプリを使うと動作の比較などができる。
- ・撮影したその場で、確認することができる。

### 【気になるのは・・・著作権の問題】

- ・YouTubeなどの動画を見せることについて、「授業」における視聴は著作権法で認められている。
- ・「違法」にアップロードされているとわかっている動画を見せることはいけない。
- ・その際、ストリーミング再生はOKだが、サーバーなどへのダウンロードしてはいけない。
  - 直接、インターネットにつないだ状態で見せることになる。
  - 以前はYouTubeの動画をiPadに保存できるアプリがあったのだが、最近ではできなくなった・・・。
- ・テレビ番組などを、録画して見せるのは良いが、ライブラリー化することはいけない。

### 【今後に向けて】

タブレットをコミュニケーションや情報を共有するためのツールとして利用できればよいが、ハード・ソフトの両面でハードルが高い。

サーバー（クラウド）をネットワークの中心として、各班の実験結果やまとめたものを「ホワイトボード的」にタブレットに書き込んだり、互いに記入したものを見合うことができたり、それらを大型画面に表示できたら、授業の中で有効に活用できるだろうと思うが、どのようなソフト（アプリ）を使えばできるのかについて研究する必要があるとともに、タブレットの個数をそろえること、Wi-Fi環境を整えることなどの課題をクリアしなければならない。

## 研究内容① 過年度研究内容の普及・推進

○各学校の名寄市民文化センターE N-R A Yホールを効果的に活用した取組の見学・交流・普及

・E N-R A YホールE N-R A Yホールの見学研修会

概要説明

名寄市民文化センター 倉澤 宏 館長

### (1) 施設の概要

大ホール 647席

舞台 間口約16m

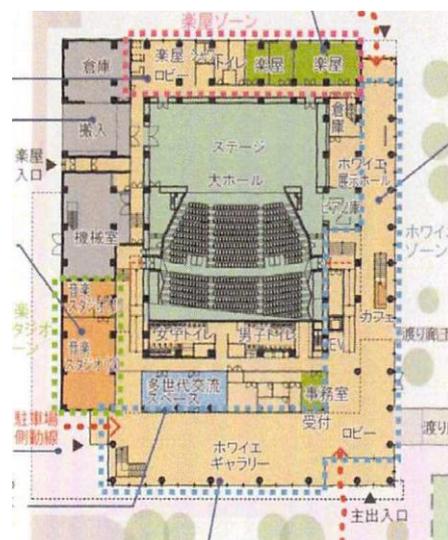
高さ約8m 楽屋1～3

音楽スタジオ1・2

世代交流スペース

ホワイエギャラリー1・2F

親子観覧室



### (2) 見学の概要

・6月17日、教育資源等の活用に関するグループのメンバーを中心に見学研修会を行いました。実際に見ることと倉澤館長の説明が中心でしたが、バックヤード部分も見ることができ、今後の活用の一助となりました。



### (3) 見学を終えて

・今後、E N-R A Yホールを使用した実践や実績を積み上げて全市的に活用できるようにすることが大切。

## 【資料6】

### ■ EN-RAYホールを効果的な活用した取組・交流・普及

EN-RAYホールを活用した実践例 ～智恵文小～	
時期	平成27年8月20日（木）
教科・単元名	学校行事 「音楽（演劇）鑑賞会」 ※豊西小学校と合同
活用にあたって	<p>よかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台装置や音響設備を生かした、本格的なプロの演奏を間近で体験することができたこと。</li> <li>・体育館では味わうことができない、音の響きや迫力がホールでは感じることもできたこと。</li> <li>・いす席なので、鑑賞態度がととてもよかったこと。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがステージに登壇したり、演奏者の方が客席で歌ってくれるなど演奏者とのふれあいはあったものの、体育館での演奏と比べると少し遠く感じたこと。</li> </ul>

エンレイを活用した実践例 ～名寄中～	
時期	7月下旬
教科・単元名	吹奏楽部活動でのホール練習
活用にあたって	<p>よかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会本番と同じような環境で練習することにより、雰囲気になれると共に、音の響き具合などを確認することができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EN-RAYホール自体の問題ではないが、楽器を移動させることに手間とお金がかかる。</li> </ul>

### ■ 来年度の EN-RAY ホール活用予定&事例

- ① H28年8月19日（金） 劇団四季公演 対象：小4～小6
- ② 月～11月 対象：智恵文小2年・生活科「えがおのひみつたんけんたい」
- ③ 8月22日（月） 音楽の鑑賞会 対象：西小と南小1～小3
- ④ 8月27日（火） 名寄市小中学校音楽発表会

## 研究内容② 家庭や地域の理解や協力を得た道德教育の推進

### ○ 「わたしたちの道德」の効果的な活用

- ・授業実践

### 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成27年11月11日（水）第5校時

学校名 名寄市立名寄中学校

授業者 高 橋 理

生 徒 第1学年（男子16名、女子17名）

主題名 正義を重んじる

資料名 「ぼくは見なかった」（創作）

内容項目 【4－（3）公正・公平、正義】

関連項目 【1－（4）真理・真実の追求】 【4－（1）法やきまりを守る】

#### 1. わらい

主人公が置かれている葛藤状況に焦点を当てて考え、話し合うことにより「正義」「公正・公平」について、より高次の道徳的思考を理解し、どうすべきかを判断・理由付けできる。

#### 2. 主題設定の理由

赤信号を無視して渡ろうとする大人や、タバコやゴミが路上にポイ捨てされているのをよく目にする。それは「人が見ていないからいいや」「誰にも気づかれないならやってみよう。」などの気持ち、すなわち、他者を判断基準として物事を考えた結果の行為と言える。

しかし、中学生には「正義」や「公平さ」「公正さ」などを判断基準として行動できるようになってほしいと考える。人間としての正しいあり方や正しい筋道を考えた場合、正義を重んじることこそが、誰に対しても公正・公平になるということにも気づかせたい。

また、正義を重んじることは、せまい仲間意識や利己心を克服することにつながるということも考えさせたい。正義や公正が、人間が生きていく上でどのような意味を持つかを捉えさせたいと考え本主題を設定した。

#### 3. 授業をするに当たって

本教材は「正義」「正直」「友情」についてのモラルジレンマと言うことができる。正直・正義という観点からは「通報すべき」であり、友情という観点からは「通報する」「通報しない」の二つに分かれる。中学生の時期は、友情についての価値判断が個によって発達的に異なるからである。また、かつては自分の利害のみで判断していたことも、他者の立場や将来にわたっての見通しを考えた上での判断に変わってきたためともいえる。そして、元々ある、他から教えられた価値判断から、自身が主体的に判断する移行期であることも関係する。

そこで、「通報する」か「通報しない」かを自ら判断し、それぞれのメリット・デメリットを両面から考える中で、差別や偏見にとらわれずそれぞれの登場人物の立場に立って、真の「正義」とは、本当の「友情」とは何か考えさせたい。そして、「真実・理想の追求、充実した生き方」についても考えが及ぶように話し合いを進めたい。

#### 4. 評価の観点

- ①誰もが安心して生活できる社会の実現のために大切にすべき心情や態度についての考えを深めることができたか。
- ②差別や偏見にとらわれず、正義が通り、公平で公正な明るい社会の実現について考えを深めることができたか。

## 5. 本時の展開

### (1) ねらい

- 主人公が置かれている葛藤状況に焦点を当てて考え、話し合い活動を通じて「正義」「公正・公平」について、より高次の道徳的思考を理解し、どうすべきかを判断・理由付けすることができる。

### (2) 展開

時間	主な学習活動	疑問・指示	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価
導入 10分	○学習する道徳的価値について知る。 □教師による資料の判読 ○主人公（秋男）の葛藤状況をとらえる。			◇時間をかけすぎない。 ◇主人公の葛藤状況（通報しようかどうか迷っていること）を整理する。
展開 前半 20分	自分が秋男自身だったら警察に通報するか。			
	○通報するべきかどうか判断し、理由づけを行う。【個】 ○通報しないことによる良い点・悪い点について考える。【個】 ○それぞれの意見を発表し、交流する。【集団】 ○発表内容に関して疑問や質問があれば挙手をして質問を行う。【集団】		・通報する どんな理由があっても犯罪は犯罪だから。 ・通報しない 道夫の兄は道夫のために働いているから。 ・良い点 事件が解決する ・悪い点 道夫が困る	◇正解を求めるのではない。相手を論破することが目的ではないことを告げる。 □価値を両面でもとらえることができる。 □自分の意見をすすんで発表することができる。
	（話し合いの結果）自分が秋男自身だったら警察に通報するか。			
	○話し合い後の自分の考えをまとめる。【個】			□話し合った結果、自分の判断や理由づけを柔軟にさせることができる。
展開 後半 15分	○私たちの道徳P162を読む。			◇悪いことを見て見ぬふりをする実態について想起させる。
	悪いことをやめさせることがなかなかできないのは、なぜだろう。 これまでの生活を振り返り、考えたことや話し合ったことをまとめてみよう			
	○私たちの道徳P162に記入する。		・仲のよい友達と言いつらい。 ・友達だからこそきちんと話をしなければならぬと思う。	◇仲のよい友達だからこそ、立場を考えて行動することの大切さについて触れたい。
終末 5分	○授業の感想を記入する。【個】			□学校の仲間や教師の話を聞き、様々な立場で物事を考え、正しく冷静に判断することの大切さに気づく。

・授業記録

段階	教師の働きかけ	生徒の学習活動
導入	<p>○課題提示 「正義について考えよう」 ○正義といえは？</p> <p>○ある男の子の葛藤について話します。 (プリント配布後、判読)</p> <p>○登場人物について確認 (どんな人か)</p> 	<p>○ヒーロー、正しいこと、純粋アンパンマン</p> <p>○秋男、道夫 (友達)、道夫の兄 秋男の母、義雄じいさん</p>
展開前半	<p>○自分が秋男だったらどうするか。 ・ワークシートを配布後、記入の仕方を説明 (自力解決。時間は3分)。 ・机間指導</p> <p>○3分後ネームカードを黒板に貼る。</p> 	<p>○自分の考えを書き込む。 ・通報する ・通報しない</p> <p>○通報する、しないのどちらかに貼る (する20名、しない12名)。</p>
展開前半	<p>○その理由を聞く。</p> <p>・だめじゃないのか</p>	<p>○理由を発表。</p> <p>*通報する ・人をひいていいわけではない ・通報しても捕まるとは限らない。</p> <p>*通報しない ・道夫の兄が捕まって道夫が1人になる ・道夫の兄が捕まると道夫が困る ・義雄じいさんは嫌われている ・だめだけど… ・恨まれたら面倒 ・秋男の母が面倒くさいことにはかかわりたくないから</p>

<p>○通報することによるメリットとデメリット、通報しないことによるメリットとデメリットを考えよう。 (自分の考えを3分でワークシートに)</p> <p>○通報することによるメリットとデメリット</p>  <p>○通報しないことによるメリットとデメリット</p> <p>○通報するかしないかについて、グループで話合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いによって、自分の考えが変わった生徒は、ネームカードを貼り替える</li> </ul> <p>○整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人をはねたことは悪いこと</li> <li>・状況によっては通報しなくてよいか？</li> </ul>	 <p>〈よいところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真実が分かる</li> <li>・道夫の兄に罰を与えられる</li> <li>・また人が傷つく可能性がなくなる (犯罪者、被害者が減る)</li> </ul> <p>〈悪いところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道夫が生活できなくなる</li> <li>・親類縁者との関係が悪くなる</li> <li>・母など家族を巻き込む</li> <li>・島の住民全員に責められる、恨まれる</li> </ul> <p>〈よいところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道夫が1人にならないので困らない</li> <li>・道夫の兄も今までどおり働ける</li> <li>・誰からも恨まれない</li> <li>・義雄じいさんに罰を与えられる</li> <li>・母が困らない</li> <li>・道夫と仲良くできる</li> </ul> <p>〈悪いところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島の住民全員に犯罪を見逃した人というレッテルを貼られる</li> <li>・犯罪を見逃したから共犯</li> <li>・義雄じいさんが困る</li> </ul> <p>○通報するからしないへ4人移動</p> <div data-bbox="895 1323 1254 1480" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>授業の流れを踏まえ、後半に「私たちの道徳」を活用</p> </div>
<p>展開後半</p> <p>○「私たちの道徳」への書き込み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪い友達に正すように進言できないのはなぜか？</li> </ul>  <p>○悪いことがあったら言わないといけない</p> <p>○将来、だめなものはだめと言える大人になってもらいたい。これからの生活の中で実践してほしい。</p>	<p>○書き込みの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回りから正義ぶっていると非難される</li> <li>・誰かが言ってくれると思う</li> <li>・自分がいじめのターゲットになると困る</li> <li>・迷った結果</li> <li>・友達や生活のことを</li> <li>・言いたいことが言えない</li> <li>・注意しなくて困る</li> </ul> <div data-bbox="922 1832 1369 1962" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>本時の読み物資料についての思考を生かした書き込み</p> </div>
<p>終末</p> <p>○ワークシートへ感想の書き込み</p>	<p>○感想の記入</p>

道徳の結問ワークシート

## 正義について考えよう

1. あなたが秋男くんだったら、警察に…

( 通報する ) ・ 通報しない )

(理由)

フラフラ走っていた義男じいさんも悪いけど、でも、人をひいて  
いい訳じいだから。

2. そうすることによる

よいところ

悪いことをした人がいなくなる。

悪いところ

親類縁者にうらまれる。

3. 話し合いの結果…あなたは、警察に…

( 通報する ) ・ 通報しない )

(理由)

どんな人をひいても、人をひいていい訳じいだから。

4. 今日の授業で感じたこと・考えたことをワークシートにまとめましょう。

・悪いことは悪い、と伝えることが大切だと思いました。

## 正義について考えよう

1. あなたが秋男くんだったら、警察に…

( 通報する ・ 通報しない )

(理由)

道夫君の家は両親を亡くし、道夫君の兄さんが頑張って働いている。  
友情は大切だから他の誰かが道夫君の兄の運命を助ける  
ことを願いたい。

2. そうすることによる

よいところ

- ・ 道夫が生きていくのに必要な兄さんから家族を守ることが出来る。
- ・ 自分の家族が恨まれない。

悪いところ

- ・ 人を助けることが出来ない。正義はいつか報われてはいるのに友情は保てられない。
- ・ 通報しないこと。

3. 話し合いの結果…あなたは、警察に…

( 通報する ・ 通報しない )

(理由)

4. 今日の授業で感じたこと・考えたことをワークシートにまとめましょう。

正義の形は色々あることを感じた。  
けど、自分の体験には注意が必要だと感じた。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ①前半に創作資料「ぼくは見なかった」を読んで正義感について自分の考えをもち、後半に「私たちの道徳」に自分の考えを書くことによって、生徒は、前半の読み物資料をとおして深めた自分の考えを「私たちの道徳」にスムーズに書き込みをすることができた。
- ②「私たちの道徳」に書き込む場面を後半に位置付けたことによって、生徒は、目指す道徳的価値（公正・公平、正義）について、考えを深めることができた。

#### (2) 課題

- ①前半の読み物資料の場面状況と私たちの道徳の場面状況のずれが大きいと生徒の思考にずれが生じる。今回の資料では、前半の読み物資料の内容と私たちの道徳の資料の内容について吟味する必要がある。
- ②「私たちの道徳」を効果的に活用した道徳の時間の指導方法について、実践を積み重ねることが重要である。

参考資料

風連中学校  
の実践

道徳学習指導要領(第1学習) 2019. 11. 19 (日) 実施者: 本校 指導

1. 文の単位 「風連町の日本について学ぼう」(1)(2) 及び日本の職人の生活の尊重、日本の文化財
2. 資料名 「風連町」の職人の文化財の制作 (出典: 『風連町の歴史』 pp.206～207、CWL、1997年) 『風連町の歴史』(2)の巻末から日本文化財の制作、2002年11月

3. 実践の経緯

(1) 本時の学習のねらい

① 本時の学習のねらいは、職人を学ぶことにより日本の文化財の制作の歴史を知ることである。

(2) 本時の学習のねらい

① 本時の学習のねらいは、日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。

(3) 本時の学習のねらい

① 本時の学習のねらいは、日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。

4. 実践の要約

	上 学 年 級 名	日誌の上の要約
10分	1. 日本にはいろいろな職人がいる。 ① COOL JAPAN 「おもてなし」 かわいい	□ 日本にはいろいろな職人がいる。その中でも、職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。
15分	2. 資料から、職人が作っている日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ① 風連町の歴史(2)の巻末から日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ② 日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。 ③ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ④ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ⑤ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。	□ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。
20分	3. 日本人は、日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ① 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ② 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ③ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ④ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ⑤ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。	□ 日本人は、日本文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。
10分	4. 日本人は、日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ① 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ② 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ③ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ④ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ⑤ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。	□ 日本人は、日本文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。
10分	5. 本時の学習のねらいは、日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。 ① 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ② 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ③ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ④ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。 ⑤ 日本文化財の制作の歴史を知ることである。	□ 本時の学習のねらいは、日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。

5. 本時の学習のねらいは、日本の職人の生活の尊重、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。また、日本の文化財の制作の歴史を知ることにより、日本の文化財の制作の歴史を知ることである。



事 項	内 容
研修係より	<p>話し合い活動を通じて、認め合う心や思いやりの心を育むことを目的とした授業実践を行った。活発な意見交流を行い、ご助言をいただき、更に実りのある研修にした。</p>
授業者より	<p>本時は、日本の伝統と文化に興味を持つための動機付けの時間と考えた。授業をとおして難しかったと感じたのは、資料を元に「日本人になる、ならない」について考えた場面の主人公の気持ちを読み取る場面であった。また、自分に置き換える場面で考えが浅くなってしまったのは、日本人として、自国に対する理解が浅いことが要因として考えられる。しかし、自分の考えを自分の言葉で発表していたことや活発に発言する姿が多く見られたことはよかったと思う。</p>
授業交流	<p><b>1 学年より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入の仕方が良かった。また、授業の導入から資料を読むまでの展開がスムーズであった。</li> <li>・国語の読む力に差はあったが、生徒は自分なりに読み取っていた。</li> <li>・伝統に対する考えが浅いままに成長してきている面がぬぐえないため、主人公の考えを想像できない面も見られた。自分の身の周りがある、日本の文化・伝統について掘り下げることができれば生徒の反応も違ったかもしれない。</li> </ul> <p><b>2、3 学年より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が話をしているときに生徒が静かに聞いているなど、学習に向かう姿勢が育っていた。</li> <li>・先生の声の大きさや速度にメリハリがあって良かった。</li> <li>・終末場面における先生の話は、大変効果的であった。また、手を挙げて発言できない生徒に対して励ましの言葉をかけるなど、きめ細やかな指導をしていた。</li> <li>・最後の映像が主題に迫るもので良かった。</li> </ul> <p><b>校長・教頭より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入場面部や終末場面に動画を活用するなど、工夫されていた。</li> <li>・資料に関する丁寧な説明を行うなど、資料を効果的に活用していた。</li> <li>・スカイツリーの高さや色の名前にも日本の文化が残されているなど、気がつかない日本の文化に気付く授業であった。</li> <li>・生徒が歴史的建造物を見て、本当に「素晴らしい」と感じられているのかは疑問。</li> <li>・なぜ日本の文化が外国で受け入れられているのかについて、例を挙げて説明をするなど、指導方法を工夫することにより、生徒の考えの広がりが期待できたのではないか。</li> </ul>

事 項	内 容
	<p data-bbox="375 203 491 237">主査より</p> <ul data-bbox="375 248 1465 573" style="list-style-type: none"> <li>・学級経営の素晴らしさが授業に出ていた。</li> <li>・引用元や言葉の解説が入れてあり、丁寧に資料が作られていた。</li> <li>・どんな意見が出てもし上げるので、生徒が安心して発言していた。</li> <li>・年間指導計画に訂正を加えていくことで次年度に向けての生徒の実態に応じた計画ができる。</li> <li>・伝統と文化の整理が大切（伝統→継承、文化→創造）</li> <li>・指導過程について…主発問は一つに絞り込めるか。どのように教材を読み取るか。</li> </ul> <p data-bbox="1198 584 1214 618" style="text-align: center;">↓</p> <p data-bbox="1078 629 1331 663" style="text-align: center;">それが道徳の面白さ</p>
指導主事より 助言	<ul data-bbox="375 730 1465 1099" style="list-style-type: none"> <li>・日頃の指導が今日の生徒の姿に出ていた。</li> <li>・基本的な学習過程が確立されていた。</li> <li>・ねらいが明確であった。何について考えさせたいのかが明確であった。指導案づくりを楽しむことが大切。</li> <li>・教材の工夫…動画で生徒の気持ちをひきつける。資料等をファイルに閉じることで自分の足跡を振り返ることができる。</li> <li>・学習活動の工夫…体験的な学習、問題解決的な学習。</li> <li>・道徳的価値を高める指導のあり方</li> </ul>
研修係より	<p data-bbox="375 1211 1465 1290">次年度に向けて、学習規律や学習形態の工夫、指導方法の工夫、発問の吟味など、学校全体で協議を重ね、校内研修の一層の充実に向けて取り組んでいきたい。</p>
校長より	<p data-bbox="375 1402 1465 1525">展開の前半をコンパクトにしたら終末部分を深めることができたのではないか。教科との関連を感じさせる授業であった。今後、道徳教育と教科の指導内容と関連付けながら、さらに研究を深めていくとよい。</p> <p data-bbox="375 1547 1465 1626">道徳性のテストがあるので、それを実施してから授業を行うこともできる。失敗を恐れず、まずはやってみることが大切。</p>

## 子どものよりよい育ちのために家庭で取り組む7つのポイント 定着状況調査より

教育改善プロジェクト委員会 教育資源グループ

### はじめに

全道・全国と比較し、名寄市の児童・生徒が「家庭で取り組む7つのポイント」についてどの程度定着しているのかを確かめるため、今年度実施した全国学力・学習状況調査結果や、昨年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果をもとに分析しました。名寄市の小6、中3の限定された児童生徒になりますが、全国・全道と比較した名寄市児童生徒の傾向の把握ができることができました。

### 1 朝食を食べる習慣が大切です。

#### (1) 朝食を毎日食べていますか

#### (小学生)

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



#### (中学生)



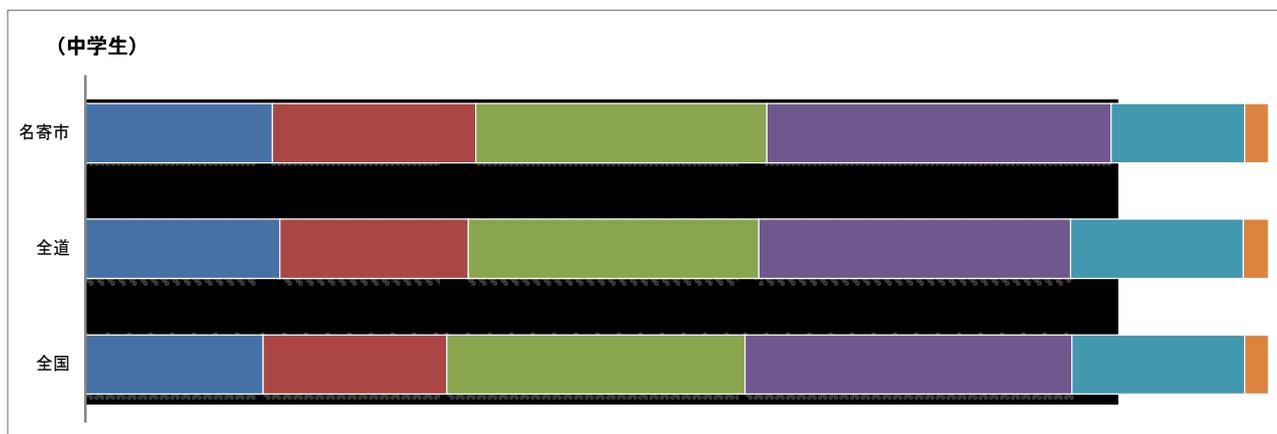
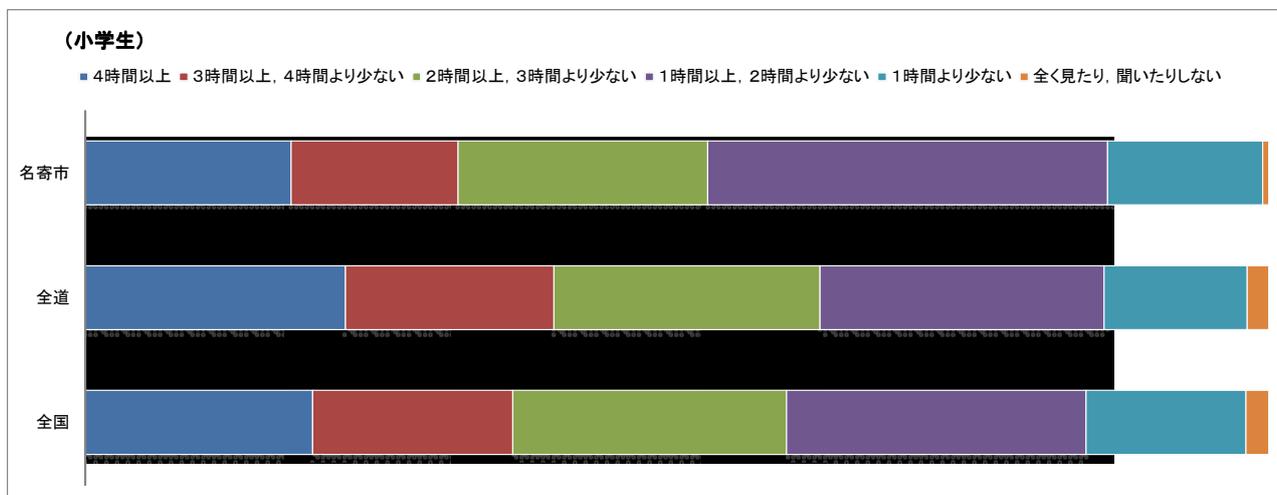
名寄市の小中学生は、「朝食を毎日食べている・どちらかという食べている」と回答した児童生徒は多い傾向にあるが、小学生は全道・全国と比較では下回っている。

名寄市の小学生と中学生を比べると、中学生の方が「朝食を食べる」ことに対して意識が高い傾向が見られる。

朝食を食べていない児童生徒がいる実態を踏まえ、学校と家庭が一体となって、早寝早起き朝ごはん運動等の活動の啓発を推進する必要がある。

## 2 節度ある生活習慣が大切です。

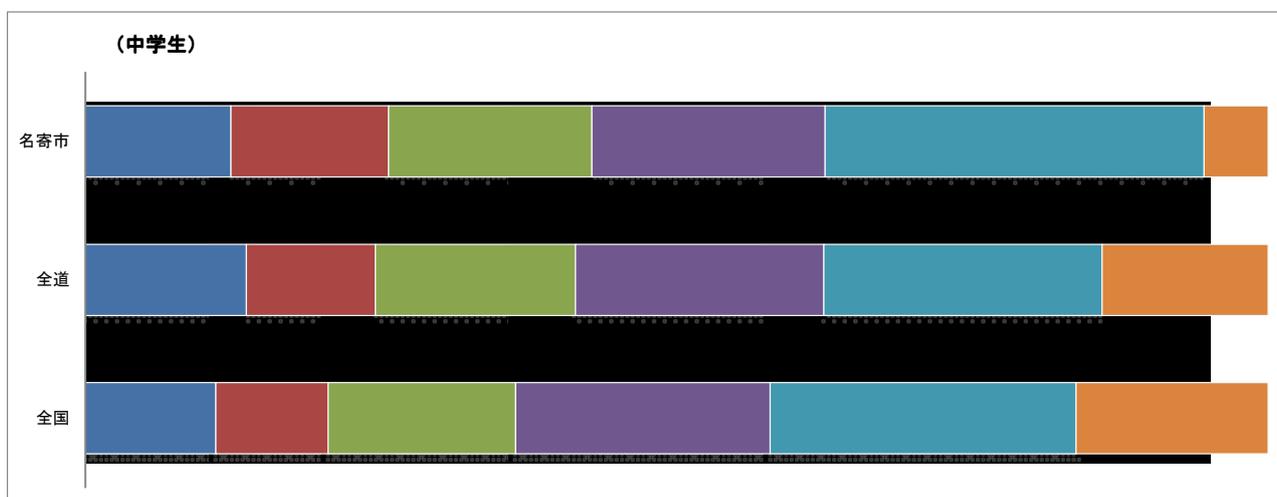
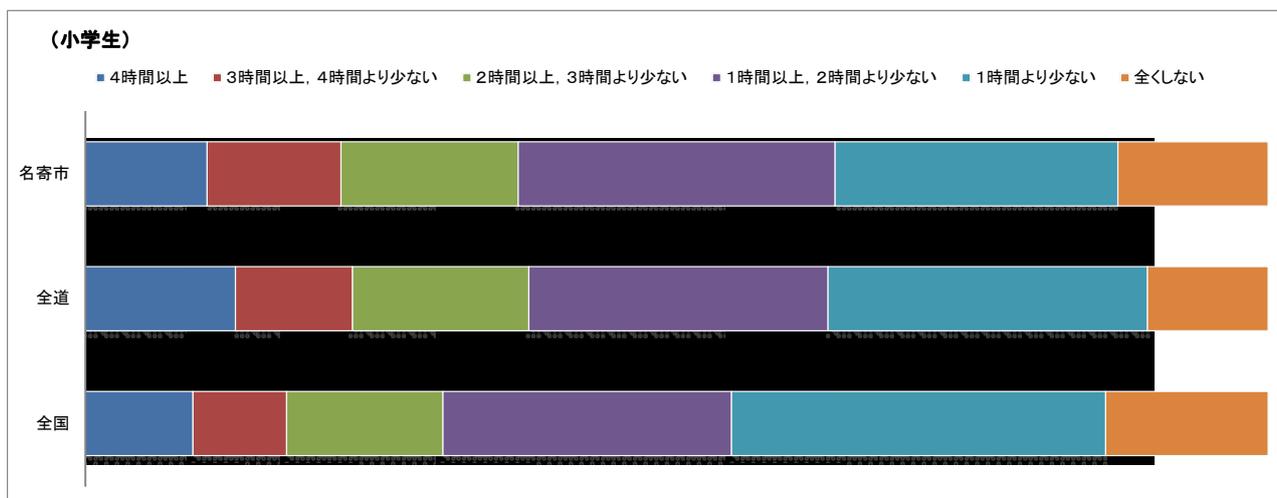
(10) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)



普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする小・中学生は、名寄市と全道・全国で大きな割合の違いはない。

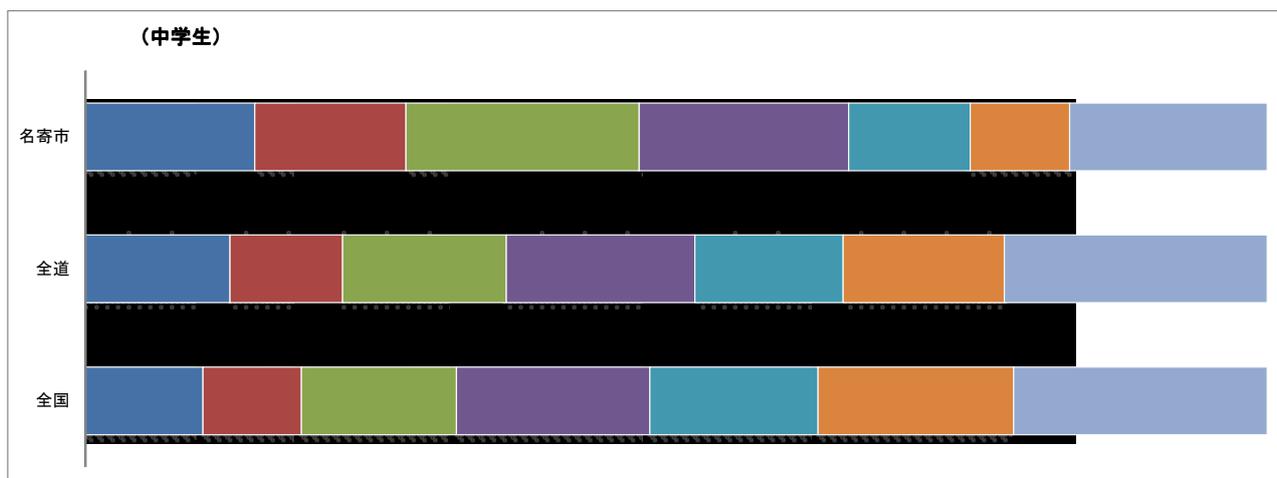
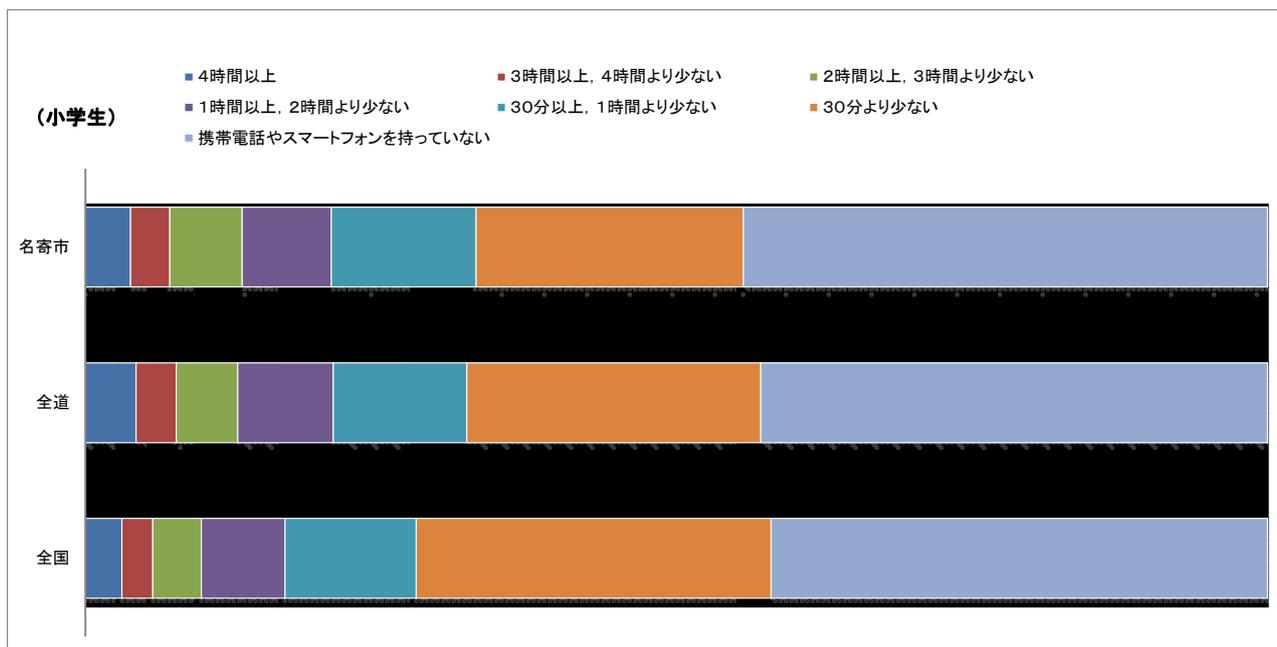
名寄市の小学生は半数近くが、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間が2時間以内と答えており、視聴時間は全道・全国と比べ短いといえる。

(11) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



平日(月～金曜日)、1日当たり1時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をすると回答した小・中学生の割合は、使用時間に係る全ての項目において全国より割合が高い。

(12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



名寄市の中学生は、全国・全道に比べ、携帯電話やスマートフォンの所持率が高い。

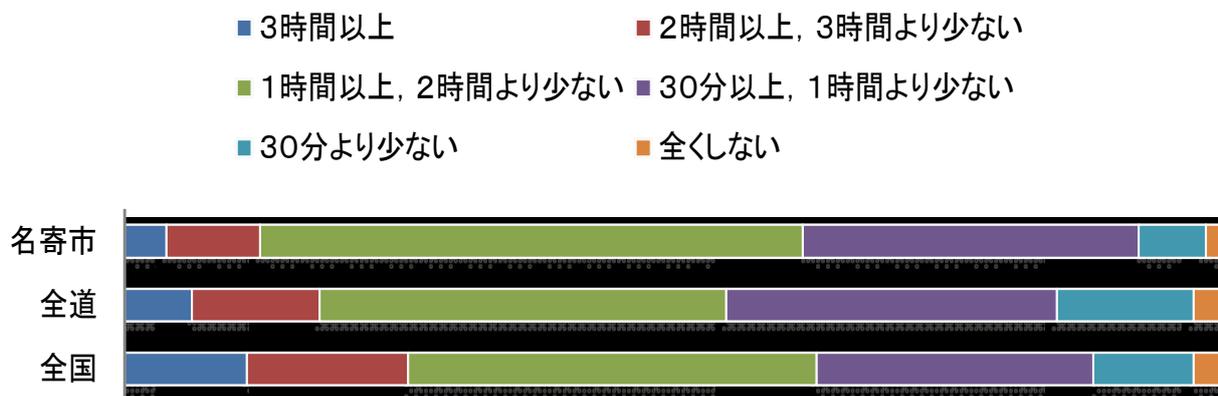
平日(月～金曜日)、1日当たり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やインターネットをする割合も、全国・全道より高い。特に中学生は全国・全道に比べ割合が高い。

ゲームや携帯電話の望ましい使い方について、家庭において約束事を決めるなど、家庭に対する一層の啓発を推進する必要がある。

### 3 家庭で学習する習慣が大切です。

(13) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか  
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

#### (小学生)



#### (中学生)



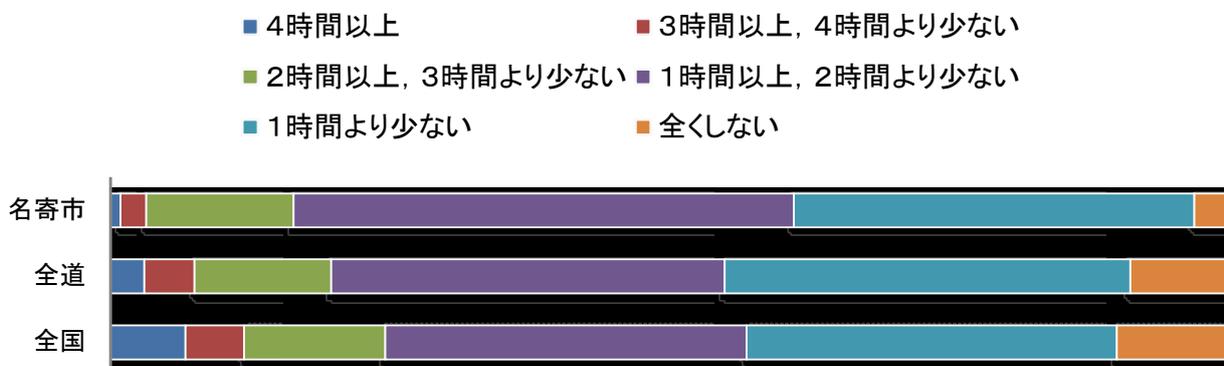
平日の家庭における学習時間は、「全くしない」と答えた児童は、全国・全道と比べて少なく、家庭学習の習慣が定着している。

学習時間については、長時間やっている児童は少ないが、30分から2時間くらい学習している児童が多い。

「全くしない」と答えた生徒が全国・全道と比べて大変多く、家庭学習をしていると回答した生徒の学習時間についても、半数以上が1時間以下である。

(14) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

(小学生)



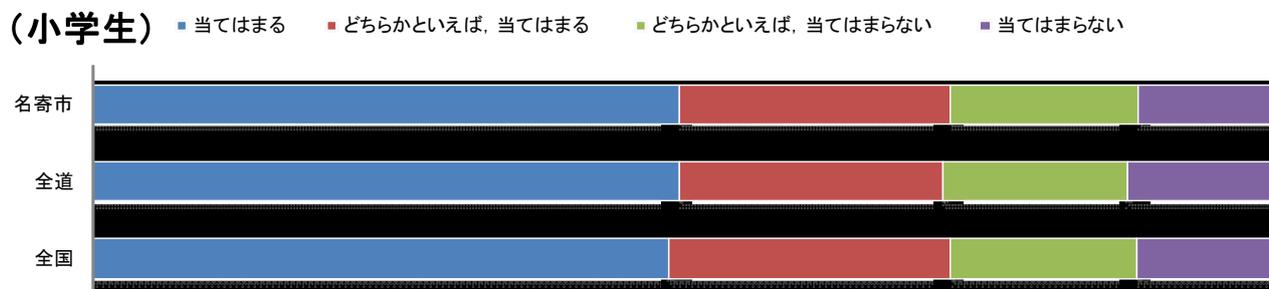
(中学生)



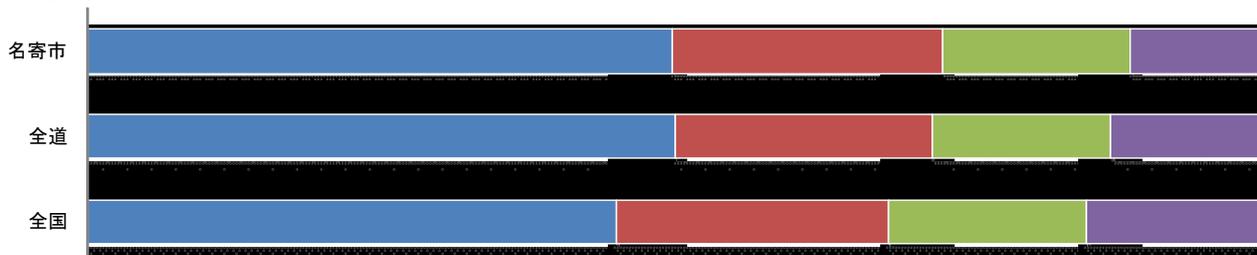
休日の家庭学習の時間は、「3時間以上」と回答した児童は少ないが、「全くしない」が全国・全道と比べても少なく、休日においても家庭学習に取り組んでいる傾向が見られる。反面、中学生では、全道・全国と比較しても学習時間がかなり少ない傾向が見られる。

## 4 読書に親しむ習慣が大切です。

### (51) 読書は好きですか



### (中学生)



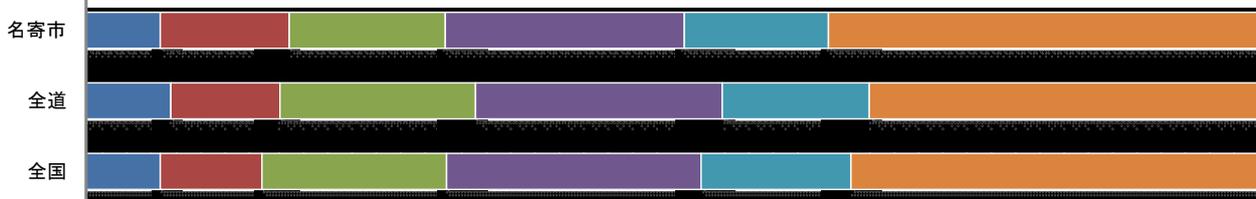
「読書は好きですか」という問いに、5割弱の児童生徒が「当てはまる」と回答している。これは全国と比較するとやや高い傾向にある。名寄市の中学生は、全国と比較して読書を好んでいる傾向が見られる。

(16) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか  
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

(小学生) ■ 2時間以上 ■ 1時間以上, 2時間より少ない ■ 30分以上, 1時間より少ない  
■ 10分以上, 30分より少ない ■ 10分より少ない ■ 全くしない



(中学生)

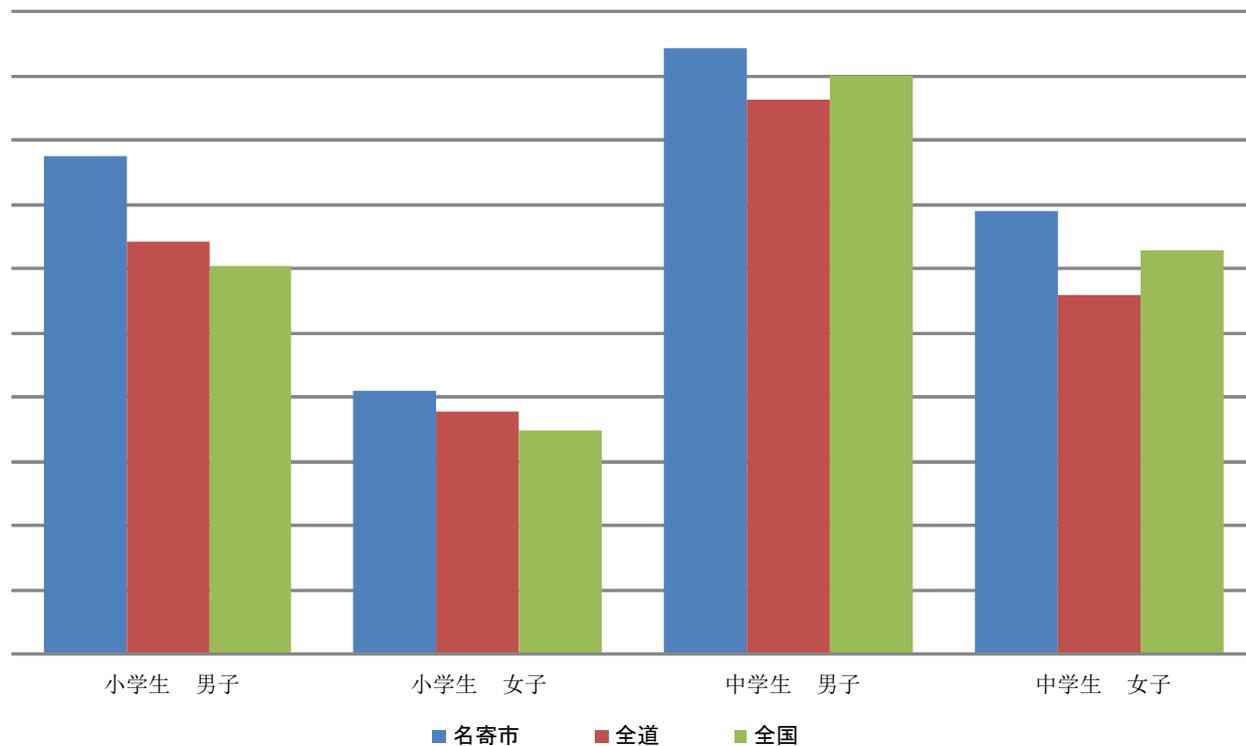


「読書が好き」と回答している児童生徒が多い反面、家庭において「読書を全くしていない」という児童・生徒が多数いることは、読書が未だに生活に根付いたものになっていないことが考えられる。

その要因として、小学校においてはテレビやゲームをする時間、中学校においてはスマートフォンやゲームなどに費やす時間の長さが要因として考えられる。

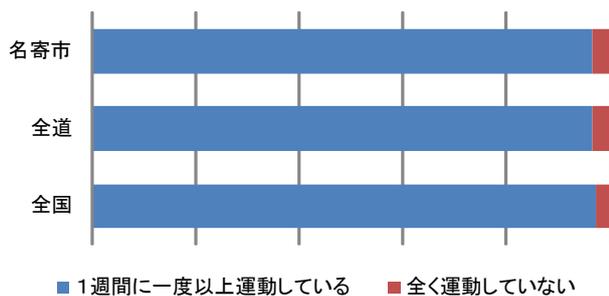
## 5 運動する習慣が大切です。

### 1週間の運動時間

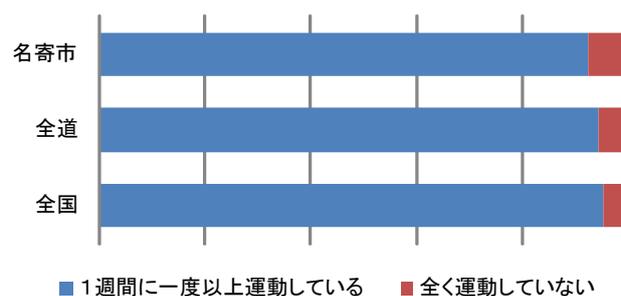


小中学校の男女子共に全道・全国と比較し、運動をしている時間が長い傾向にある。特に、男子の方が運動をしている時間が長い傾向が見られる。

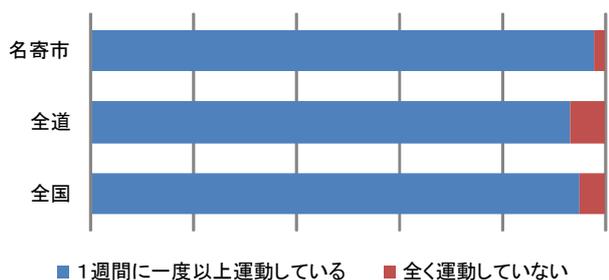
### 運動実施割合(小学生 男子)



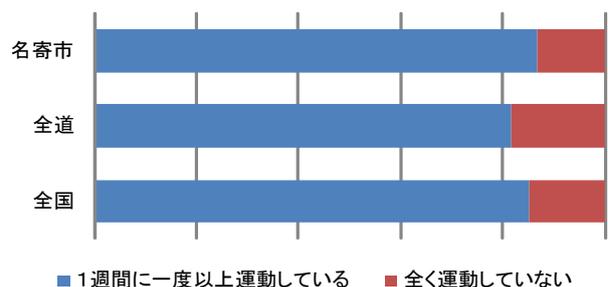
### 運動実施割合(小学生 女子)



### 運動実施割合(中学生 男子)



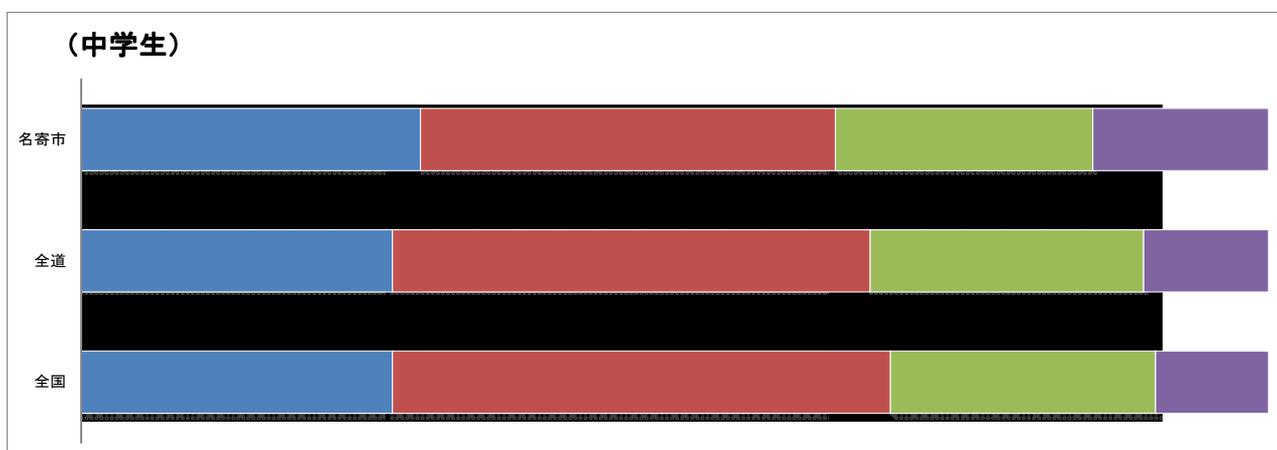
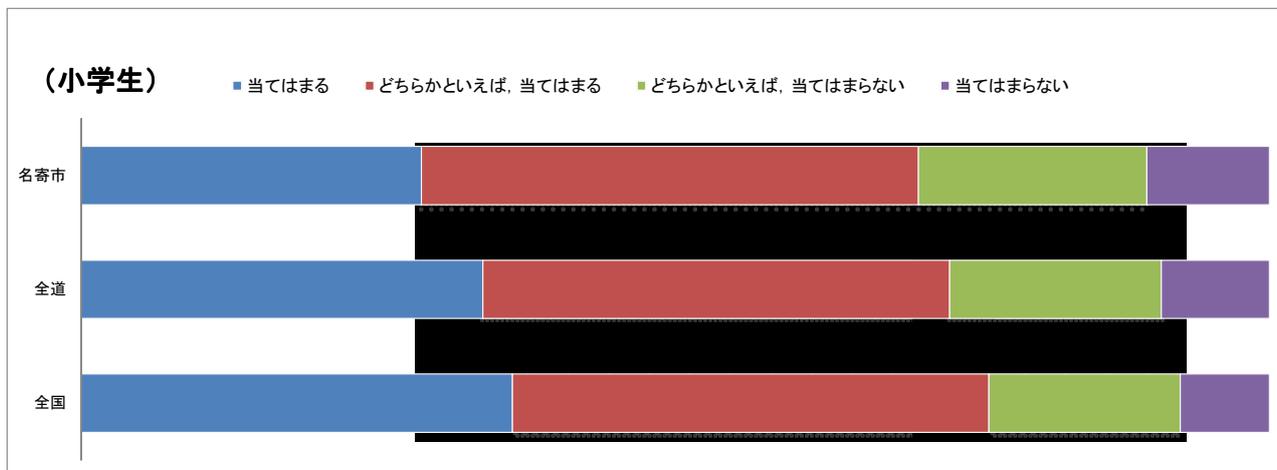
### 運動実施割合(中学生 女子)



特に小学校の女子において一週間に全く運動をしない割合が全道・全国よりも高い傾向が見られる。

## 6 自尊感情を育むことが大切です。

### (6)自分には、よいところがあると思いますか

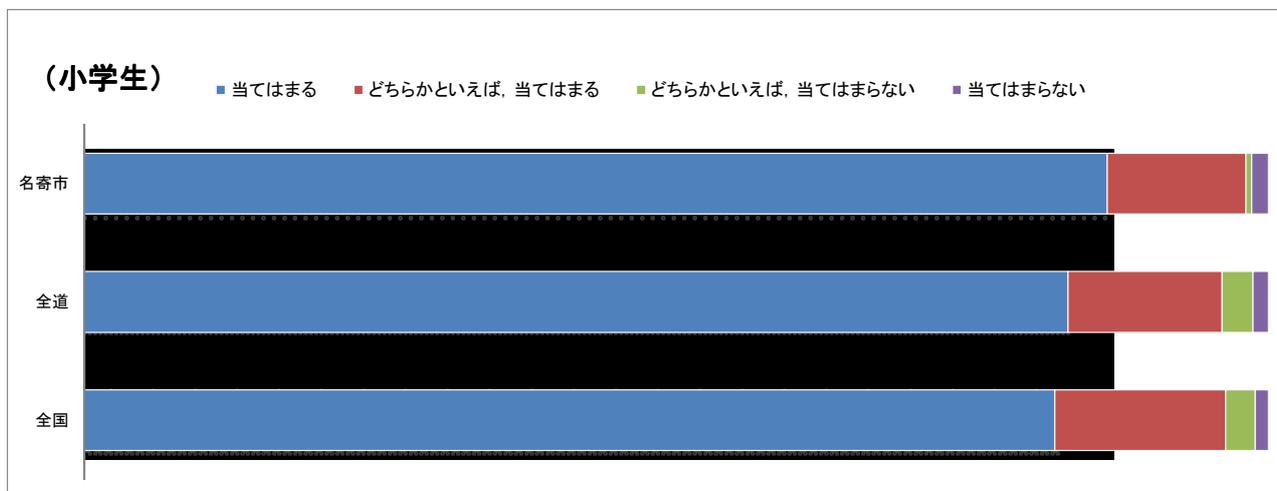


「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対し、小・中学校ともに、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、全国・全道と比べて低い傾向が見られる。

学校種別に見ると、自己を肯定的に捉えられていない中学生の割合が高い。特に、「当てはまらない」と回答した児童生徒の割合が高くなっている。

## 7 いじめが許されないと教えることが大切です。

### (34)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



全国・全道と比較して「いじめはいけないことである」と認識している児童生徒の割合が高く、望ましい傾向にある。

「いじめはいけないことではない」と認識している生徒の割合も、全国や全道よりも低い傾向が見られるなど、道徳教育を中心とした取組の成果が表れている。

しかし、すべての児童生徒が「いじめはいけないことである」と認識できるよう継続的な指導が必要である。

## まとめ

- ・7つのポイントの定着状況は、全国・全道と比較し、「節度ある生活習慣」の中でも、特にメディアに触れる時間が長いことが課題である。このことが、家庭における学習時間の長さに影響していると考えられる。
- ・メディアに触れる時間に関して、家庭への啓発をさらに図り、家庭内でルールを決めるように促す取組を一層推進していく必要がある。